

常田寛著「今、教科書は一」社会教育、2010 年 8 月号、全日本社会教育連合会刊を読む

1. 4 月 11 日付けの日経新聞「クイックサーベイ」によれば、教科書についてのアンケートを行ったところ、「小学校ではどの科目を充実したらよいか」という設問に、38 %が「国語」と回答したそうです。2 位の「算数」が 15 %ですから、「国語」は図抜けています。多くの人々が、国語こそ基本的な学力であると考え、子どもたちに何よりも国語の力をつけてほしいと望んでいるのだと思います。
2. より充実した国語の教科書を作って人々の願いに応えたい。今回光村図書は、そういう思いで新しい教科書を編集しました。
3. 新しい「国語」の大きなねらいは、「確かな力をつける」と「豊かな心を育てる」ことです。確かな力をつけるうえで、何が国語の力かをはっきりさせるとともに、学習を繰り返しながら積み上げることができる教科書の構造を工夫しました。国語の力の「習得」と「活用」を関連させた構造です。また、豊かな心を育てるうえで、日本の伝統的な昔話や古典の作品を取り入れたり、季節を感じる心を育てるという教材を設けたりしました。
4. 新しい教科書で充実した点としてもう一つ挙げたいのは、読書への誘いです。朝読書の時間が学校で定着しているのを見ても、読書のもつ教育力の幅の広さ、深さに思いを新たにします。新しい学習指導要領では国語科の内容として読書活動が位置づけられましたが、子どもたちのものの見方、感じ方、考え方を養ううえで読書ほど効果のあるものはないでしょう。
5. 新しい教科書では、各単元の学習に関連した本、付録の図書リストで取り上げた本など、6 学年で400冊を超える本を紹介しています。また、本を紹介するだけでなく、子どもたちの読書生活がより豊かになるような工夫もしています。一人一人の子どもが自分の好きな本に出会い、「本は友達」と言えるようになってほしい。—新しい教科書に込めた私どもの思いです。機会があれば、ぜひご覧ください。

P5

[コメント]

国語の教科書で有名な光村図書出版社長の常田氏の国語の教科書の活用方法は参考になる。どんな本を読んだらよいか知りたい人は、国語の教科書が紹介している本を読むことを私もお勧めしたい。小学校だけでも 400 冊選んで紹介して下さっているとは、素晴らしい試みと高く評価したい。

— 2010 年 9 月 2 日 林 明夫記 —